

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢番号の右に該当クラス数を記す。

**A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の④～①のうち該当する丸数字を選んでください。** ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:12 ②:6 ③:0 ④:0 未解答:0

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:15 ②:3 ③:0 ④:0 未解答:0

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:13 ②:5 ③:0 ④:0 未解答:0

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:14 ②:3 ③:1 ④:0 未解答:0

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:15 ②:3 ③:0 ④:0 未解答:0

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:16 ②:2 ③:0 ④:0 未解答:0

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:15 ②:3 ③:0 ④:0 未解答:0

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:10 ②:8 ③:0 ④:0 未解答:0

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:11 ②:7 ③:0 ④:0 未解答:0

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:14 ②:4 ③:0 ④:0 未解答:0

B（問 14～18）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 14 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 3
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 15
- ③他大学の FD 活動の視察： 3
- ④その他： 3・・・「同僚教員との意見交換」2、「調査（卒業生、他大学教員、他大学経営者）」1

未回答： 1

設問 15 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 11
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 14
- ③他大学の FD 活動の視察： 5
- ④その他： 1・・・「なし」1

未回答： 0

設問 16 前年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、回答 5 クラス：

- [1] アクティブラーニングに対応したテーマ設定に変更し、グループ学習を中心として授業を進めた。
- [2] この講義は、通常の授業だけではなく実技を課している。そのため、落ち着いて実技に取り組める、時間を確保した。
- [3] 受講生が今までと違い百数十人から 40 人に大幅に減少し、アクティブラーニングを取り入れた講義が展開できた。学生によるグループ研究と発表によって、理解が深まったように思う。
- [4] アクティブ・ラーニング導入科目だったので、これまでのリアクションペーパーに加えて、授業中の話し合い、理解度を確認する小テストの実施、小レポートや簡単な描画体験の結果を公開するなど、双方向的な授業内容にするように工夫した。
- [5] 教科書 2 冊を指定し、読み解く力の養成を図り、それにともない特に予習を励行した。またワークシートの記入を 3 回実施し、予習において要点をつかめるように配慮した。授業内容の復習とさらなる調査をさせるため、レポートを作成させた。授業の導入とまとめの 2 回、グループ討論を取り入れた。1 回目についてはグループ毎に発表させるプレゼンテーションを取り入れた。

非該当クラスのうち、回答 1 クラス： 新規スタイルの「物質の科学」のため、前年度実績なし。

設問 17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 13 クラス（順不同）

- [1] 毎回の講義と定期試験のレポートの課題の接続について配慮し、改善に努めた。テレビ番組、新聞記事、専門的ではない一般書など多様なメディアの活用に努めた。学会での新動向など最新の情報を内容に反映させるよう努めた。  
周到に準備すればするほど学生の満足は二極化し、内容について来られず取り残される学生が多数発生するように感じる。
- [2] アクティブラーニングとして学生によるグループワークとその内容のプレゼンテーション、およびプレゼンテーションの相互評価を実施した。また座学も同時に取り入れ、基礎的な知識の習得にも努めた。

反省点としては、座学の内容とグループワークの課題との間にやや乖離があったこと。座学自体が完全に受け身の授業であり、その学修効果に疑問があることである。

[3] アクティブラーニング導入1年目ということで、とまどった点が多かった。私からの説明とグループ学習をどううまく接合させるかが意外に難しかった。

[4] 実技をアクティブラーニングの一環としてとらえている。しかし受講生の中にはグループでの対話こそが、アクティブラーニングだととらえている人もおり、メインの講義や実技との調和が今後の課題である。

[5] 授業における学生理解評価に関しては、プレポストデザインを適用すれば良かったと反省しています。本年度は、所属学部による差が大きかったと思います。希望テーマでグループ分けをして、グループ討論を試みましたが、話し合いをまったくしないグループがあったのには驚きました。また、リーダー役をできる学生が減少しており、配慮する必要がありました。

[6] 毎回アクションペーパーを利用し、意思疎通を図ることをこころがけた。受講者が少ない分、個々の理解の状況をつかめた。

[7] 学生による授業評価の点数の低さに大変な衝撃を受けておりますが、以下のような点を重視して、私としてはこれ以上の授業を行うことは不可能です。従いまして、私の自己評価は高くしました。

毎回のワークシートならびに課題については、真剣に取り組んだ学生とそうでない学生の差が顕著に表れております。従いまして、授業評価もどのような態度で取り組んだ学生のものであるかを明確にすべきだと思います。真剣に取り組んだ学生の評価は真摯に受け止めるべきですが、いい加減な学生の評価を受け入れることはできません。最後の課題レポートに関しては「とてもためになった」のようなリップサービスばかりで狡猾さを感じます。

- 1) Call 教室を使用し、グループ活動が迅速に進められるよう配慮したこと。
- 2) ノーボードならびに web クラスを活用して班ごとのプレゼンテーションを充実させたこと。
- 3) 毎回、パワーポイント1枚目に本日の内容・課題を示し、学生に動機付けをおこなったこと。
- 4) 事前学習課題を与えて、それについて班の中で学びの共有をさせて、知識伝達型にならないようにしたこと。
- 5) 毎回、A41枚にテーマに関する賛成意見・反対意見を個人で考える→グループで考える→全体討論という手順を踏み、ブレインストーミングとなるよう心がけたこと。
- 6) 前週の意見・感想については、翌週に提示してフィードバックしたこと。
- 7) グループ毎のプレゼンテーションについては、メールを介して何度も添削したこと。

[8] 今期は体調を崩すなどして休講が3回あり、補講により不足分を補った。また、双方向的な授業にすると、予定通り進まない場合も多いので、内容の絞り込みが必要だと感じた。

[9] やや難し目の教科書、学習内容を理解させるために、わかりやすく、丁寧に説明した。4学部対象の授業は初めてだったので、どのレベルの内容や学習方法を選択するかについて、試行錯誤した。

[10] アクティブラーニングの組み分けについて、学生から意見があったので、参考にして改善をしたいと思います。

[11] 数学という教科の特性上、ある程度は仕方がないが、やはり受講する学生のばらつきが非常に大きい。できるだけ、内容として高等学校での学習の違いが影響されないものを選んだが、証明や説明を求める内容が多かったこともあり、苦労した学生も見られた。今回、グループ分けして、グループ内での説明や全体での発表なども取り入れたので、その点を面白いと感じた学生もいたようだ。途中から、グループ内で説明内容を紙に書かせるようにしたところ、こちらもアドバイスしやすくなり、よかったので、来年以降も取り入れていきたい。

[12] オムニバス形式によって、音楽の両輪である実技（合唱）と理論（音楽史および音楽学）双方からのアプローチを行い、学生の知的好奇心と興味を引き出す授業が展開できた。

[13] 本講義の主題を掘り下げる作業の導入として”絵本”を活用したが意外性もあったためか、よい反応が得られた。グル

## 教員 FD 活動レポート（基礎教育）H26 後期 まとめ 現代社会の課題

グループワークを行った後の感想として”自分のことを話すのをためらった”という意見が見られたため、グループワークを行うための工場づくりをよりていねいに行っていきたい。

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： 1・・・良い事例を皆で共有するために、敢えて名前を出します（すみません）：

「D 班：現代社会 プレゼン (1).pptx」

### C (問 19～21)：中期目標・中期計画の関連で「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19 授業の中で「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 16      ②いいえ： 1      未回答： 1

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

①聞いて理解する： 5  
②読んで理解する： 6  
③自分の考えをまとめて話す： 14  
④自分の考えを文章にまとめる： 10  
⑤討論する： 0  
⑥皆の前でプレゼンテーションする： 2  
⑦その他： 6・・・「他者と会話を行なう」4、「他人の発表を評価させる」1、「聞き手の関心に訴える」1  
未回答： 1

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 13 クラス（順不同）

[1] 社会調査、具体的にはインタビュー調査に関する知識・技法の修得が授業の目標の一つとなっていたことから、「他己紹介インタビュー」のグループワークを実施した。学生同士がペアになり交互にライフヒストリー等をインタビューし、その結果をもとにインタビュー相手のことを班内の他のメンバーに紹介する、というワークである。これを複数回繰り返させ、その過程でインタビューのポイントや留意点について自分なりに把握するよう促した。

その上で地域にでて、(広義の)まちづくり関係者にインタビューできる機会を設定した。その成果はグループ発表に反映させた。

またそれとは別の課題として、自己の身近にいる年長者にインタビューさせ、レポートとして提出させた。

・・・ 4 クラス

[2] ビブリオバトル。日本語表現に関する練習問題。レポートのピアレビュー。

[3] ・グループワークによるプレゼンテーション

・グループワークによるプレゼンテーションの相互評価

・毎授業ごとのミニレポート(感想等)の提出

[4] グループ討論、グループ発表、受講者へのホームワーク、発表内容のテスト作り、採点を実施させました。

[5] コマを使って「家族について話そう」ということで、自分の話を聞いてもらい、他人のことを聞いて理解することをグループワークで実施した。お互いに家族についての思いが伝わった、家族のいろいろな形に接することができたということで好評であった。さらに、学部を超えた学生同士の交流ができたことが副産物としては貴重な成果であった。

[6] 設問17に記載しましたが、

- 1) 個人の意見をまとめる→班で話し合う→全体討論を行う→最終的な個人の感想をまとめる手順を毎回行ったこと。
- 2) 各班でテーマを決めて、12分間のプレゼンテーションと8分間の討論についての進行、まとめをさせたことなどです。

[7] 聞いて理解するために、毎回の授業後、コメントペーパーを書かせて、授業で学んだ点を整理させ、感想や教師への質問を記入させた。読んで理解するために、ワークシートを解答させ、教科書から該当事項を抜き出させた。自分の考えをまとめて話すは、グループ討論を2回行った。1回目は、現代の日本と韓国・北朝鮮との関係を認識させるため、テーマ毎にグループを作り、各自が調査したことを報告させ、グループ毎に内容をまとめて発表させた。2回目は、授業のまとめとして、授業でどのようなことを学び、今後、日本と韓国・北朝鮮との間で何をすべきかについて、各自の考えを発表させた。2回目の討論の成果を、各自、レポートとして書かせ、自分の考えを文章にまとめさせた。

[8] 1) グループ発表をさせた。

- 2) 他のグループの発表について学生に評価させた。

[9] 割り振られた問題に対して、グループで話し合いをして、全体で説明する活動を取り入れた。

[10] 講義の冒頭にほぼ毎回グループ分けを行い、その都度異なる学生同士で意見を交わす機会を設けた。

**D (問 22～25) : 中期目標・中期計画の関連で「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

設問 22 授業の中で「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 12      ②いいえ： 5      未回答： 1

**問 22 で「はい」の方は問 23～25 にお答えください。**

設問 23 授業中で取り上げるおよその回数を選んでください。

①1～5回： 4      ②6～10回： 1      ③11～15回： 0

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 3      ②政治・経済・産業： 6      ③自然環境・フィールド体験： 3  
④その他： 1・・・「食文化」1      未解答： 6

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 5 クラス（順不同）

- [1] 教員が宮崎で実際に不登校ゼロとした学校の事例を取り上げた。
- [2] 社会調査の実施が授業内容となっていたことから、調査地域を決め、当該地域の自治体職員による講義を1回受けた。その後、グループワークにより地域の情報を収集させた上で(3回分程度)、実際に調査にあたらせた(5回分)。調査結果はグループ発表としてまとめさせた。・・・4 クラス